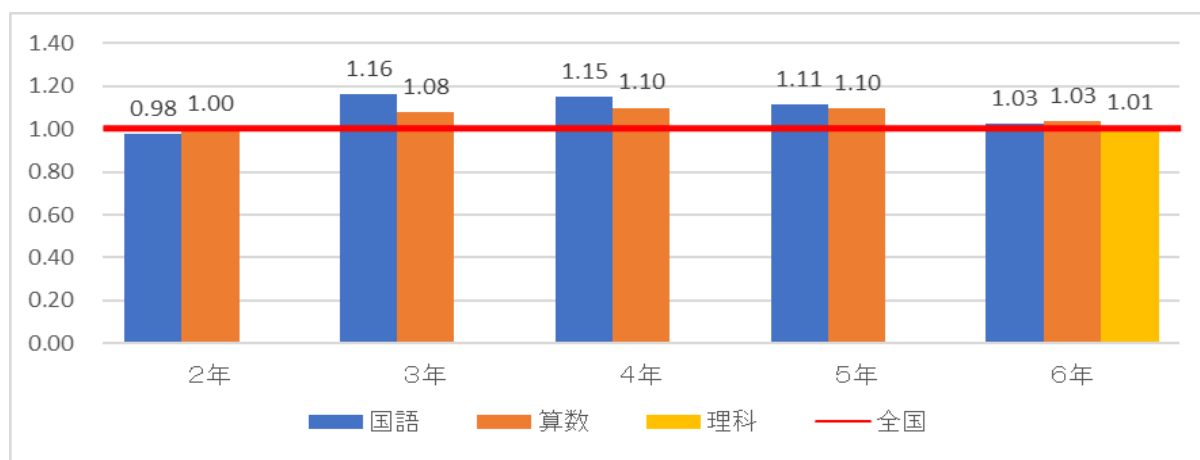


令和7年度 全国学力・学習状況調査及び寝屋川市学習到達度調査について 友呂岐中学校区 木屋小学校

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



※小学2～5年生は寝屋川市学習到達度調査、小学6年生は全国学力・学習状況調査の結果

○調査結果についての分析、今後の改善方策

寝屋川市学習到達度調査	国語	全学年において、概ね良好な状況である。全体的に記述問題での正答率が比較的高い。4・5年生のアンケートでは、分からない言葉があった際に、辞書で調べる割合が平均より低かった。主体的に語彙を増やすことで、読解力や書く力をさらに高めていきたい。またMIM(多層指導モデル)を活用して、低学年から言葉の基礎を定着させたい。
	算数	全学年において、全国平均を上回っており、良好な状況である。図形やグラフなど、課題は各学年によって異なるが、全学年で基礎的な問題は学習の成果が出ている。応用して答えを導き出せるよう、授業では考えをまとめたり、説明したりする場面を増やす。
全国学力・学習状況調査	国語	全国平均を上回っており、良好な状況である。調査では、話し合いの様子から、話者の目的や意図を汲み取る力が求められており、国語の授業だけでなく、他教科や日常生活の中でも、話し合いの状況を客観的に理解し、相手の主訴を読み取る力を養う。
	算数	全国平均を上回っており、良好な状況である。一方で、図形の意味や性質の理解に課題が見られる。特に、図形の面積を求める問題では、基本図形に分割し、式や言葉を用いて説明する力の定着を図っていく。
	理科	全国平均をやや上回っており、概ね良好な状況である。一方で、電磁石についての理解や、発芽するために必要な条件について、他の条件を制御しながら、解決を図る力に課題が見られる。考察を十分行い、論理的思考力を養うよう授業に取り組む。
	質問紙	「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問では、肯定的な回答が共に全国平均を大きく上回っていた。温かい人間関係の中で、人のために、社会のために、力を尽くしたいという思いを大切に育んでいきたい。

○学力向上の取組

【中学校区】

校区小中一貫教育推進部会において、それぞれの部会で成果と課題を明確化して、共通した目標のもと、考える力の育成を軸として一層の授業改善を図る。また校区で協働して、小学校低学年から、ディベート教育の充実に向けて取り組んでいく。

【学校】

漢字の読み書きや計算など、基礎・基本の定着について、その成果が一定表れている。特に、校内漢字検定や学期末のまとめテストを通して、一人ひとりの学力の定着状況を確認しながら、学習を進めている。また日々の授業の中で、課題に対して主体的に学び、他者と対話しながら、「考える力」を育んでいるところである。